



2016年1月

あけまして おめでとうございます。

新学期がスタートしました。みなさん、充実した冬休みを過ごせたでしょうか。さて、図書委員会では昨年12月14日、谷島屋書店にて70冊の本を店頭購入しました。図書室のカウンター前に展示したので、ぜひ、図書室へいらして下さい。



No.	書名	著者
1	シャーリー・ホームズと緋色の憂鬱	高殿 円
2	怪盗グリフィン対ラトウィッジ機関	法月 綸太郎
3	人生はもっとニヤンとかなる!	水野敬也
4	悲しみの底で猫が教えてくれた大切なこと	瀧森 古都
5	GOSICK PINK	桜庭一樹
6	花酔いロジック	森 晶麿
7	僕はもう憑かれたよ	七尾与史
8	片想い	東野圭吾
9	ディズニーランドであった心温まる物語	香取貴信
10	なりたい	畠中 恵
11	すえずえ	畠中 恵
12	図書室で暮らしたい	辻村深月
13	忘れる力思考への知の条件	外山滋比古
14	朝が来る	辻村深月
15	「だから、生きる。」	つくく♂
16	ハメル・ロドリゲス信じる	ネルソン・フレディ・パティーリャ
17	下町ロケット2 ガウディ計画	池井戸潤
18	ボブがくれた世界	ジェームズ・ポーエン
19	娘になった妻、のぶ代へ	砂川啓介
20	箱根駅伝監督 人とチームを育てる、勝利のマネジメント術	酒井政人
21	君の臍臓をたべたい	住野よる
22	ゴースト・ボーイ	ミーガン・ロイド・デイヴィス
23	アイデアの影	森 博嗣
24	人魚の眠る家	東野圭吾
25	バカヤンキーでも死ぬ気でやれば世界の名門大学で戦える。	鈴木琢也
26	働く女子の夢	日本ドリームプロジェクト
27	いちばんよくわかる! スポーツマッサージ	並木磨去光
28	2016現代用語の基礎知識	自由国民社
29	福祉イラストカットCD-ROM	佐久間ちかこ
30	日本国勢図会 2015/16年版	矢野恒太記念会
31	世界国勢図会 2015/16年版	矢野恒太記念会
32	雑文集	村上春樹
33	ケーキ王子の名推理	七月隆文
34	ちょっと今から仕事やめてくる	北川恵海
35	終業式	姫野カオルコ

No.	書名	著者
36	狼と兎のゲーム	我孫子武丸
37	心が叫びたがっているんだ。	豊田美加
38	ねこまたのおばばと物の怪たち	香月日輪
39	かばん屋の相続	池井戸潤
40	13歳のシーズン	あさのあつこ
41	信長誘拐	鈴木英治
42	ヒカルの卵	森沢明夫
43	プリンセス・トヨトミ	万城目学
44	@ベイビーメール	山田悠介
45	キリン	山田悠介
46	戊辰繚乱	天野純希
47	あやかし飴屋の神隠し	紅玉いづき
48	王子二人 アルスラーン戦記2	田中芳樹
49	王都炎上 アルスラーン戦記1	田中芳樹
50	海に見える花屋フルールの事件記	清水晴木
51	イニシエーション・ラブ	乾くるみ
52	勇者たちへの伝言	増山 実
53	天国旅行	三浦しをん
54	インシテルミ	米澤穂信
55	ルーズヴェルト・ゲーム	池井戸潤
56	一千兆円の身代金	八木圭一
57	探偵日暮旅人の宝物	山口幸三郎
58	時生	東野圭吾
59	民王	池井戸潤
60	夕ごはんとべた?	田辺聖子
61	ひそやかな花園	角田光代
62	尋ね人	谷村志穂
63	働く男	星野 源
64	閃光スクランブル	加藤シゲアキ
65	幸せはあなたの心が決める	渡辺和子
66	しぐさでわかるイヌ語大百科	西川文二
67	人間の分際	曾野綾子
68	きっと大丈夫と思えるスヌーピー	チャールズ・M・シュルツ
69	知られざる空母の秘密	柿谷哲也
70	イージス艦はなぜ最強の盾といわれるのか	柿谷哲也

1年生図書委員 おすすめ本 Part I



信長の棺

加藤 廣 (日本経済新聞出版社)

本能寺で亡くなった信長の遺骸がどこに消えてしまったかわかる本です。歴史がミステリーになっている話です。加藤廣さんは75歳で作家になり、これはデビュー作の本です。



知りたい

なぞの転校生

眉村 卓 (講談社文庫)

ある日、私たちとは住む世界が違う転校生が学校にやって来て、そこから不思議な出来事が起こる。SF小説でありながら心の機微をとらえた小説となっている。



ハマる
考える

レインツリーの国

有川 浩 (新潮社)

自分が好きな小説の感想を書いているウェブサイトを探していた男性が、共感する感想をブログで見つけ、そのサイトの管理人であり難聴を抱える女性との交流を重ねる物語である。



感動
考える

名探偵はひとりぼっち

赤川 次郎 (角川文庫)

ささいなことをきっかけに1人で駆け落ちをすることになった。そこで偶然会った謎の少女みどりと難事件を解決していく物語です。面白いので、ぜひ読んでみて下さい。



考える

ハマる

夜行観覧車

湊 かなえ (双葉社)

周りから見ても不自由のないエリート一家だったが、ある日、恨まれることもないような父が誰かに殺害されてしまった。謎の多いミステリー小説なので、ぜひ読んでみて下さい。

